

府養研ニュース

2004年10月号

このページでは要点だけをお知らせしています。
追加記事は、本ページのリンクをクリックください。新しいウィンドウが開きます。

府養研ニュースは各種案内等の事務連絡と一緒に、毎月第1月曜日にEメールで配布されています。第1月曜が祝日であれば火曜日発行になります。来月11月は1日発行です。一部メール網がまだ整備中もしくは検討中の市町村は、郵送または逡送されています。アドレス変更の学校は旧アドレスと新アドレスをメールでお教えてください。

平成16年10月4日発行 大阪府養護教育研究会(広報部)
事務局 豊中市立南桜塚小学校 会長 西田 益久 〒561-0882 豊中市南桜塚2-2-1
問い合わせ・ご意見は、Mailで[本部役員](#)まで

府養研から

ホームページもご覧ください。 <http://fyouken.visithp.jp>

特別支援教育の動向、関連リンク紹介などの各種情報をご覧になれます。
ニュースの全部とバックナンバー、講演会案内、報告がご覧になれます。
各支部のページがあります。ホームページからご覧ください。(支部主催行事・講演等)
支部の[投稿](#)をお待ちしております。

ウィルスにご注意。思い当たりのない、疑わしいメール、添付ファイルは危険です。

役員総会(本部役員・支部役員のみ 今年度役員の方、ご予約ください)
第3回平成17年1月13日(木)午後3時～5時 アウィーナ大阪3階生駒の間

研修部から

テーマ別 研修会 延期	申し訳ありません。都合により延期となりました。 11月27日(土)14:00～八尾市文化会館プリズムホール 日程が決まり次第、ニュース、またはホームページでお知らせします。
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

研究部から

報告 ICT活用プロジェクト夏期講座	参加者による 8月16日・17日の報告 ホームページのICT活用のページ もぜひご覧下さい
-----------------------	----------------------------------------------------------------------------------

報告 LD教育プロジェクト講演 会	8月19日(木)に行われた 講演と分科会の報告 です。
もうすぐ 自閉症教育プロジェクト	2004年10月20日(水)15:00～17:00 会場 泉南府民センタービル 第一セミナー室 - 自閉症の心理学的な障害特性の理解と対応の基礎 - 講師 金井孝明先生(堺市立百舌鳥養護学校教諭) 案内添付
自閉症教育プロジェクト講演 予定	予告 2005年2月24日(木)14:00～16:30 場所 サンスクエア堺(勤労者福祉総合センター) 高機能自閉症およびアスペルガー症候群の理解と教育現場での 対応への示唆 講師 内山登紀夫先生(児童精神科医、よこはま発達クリニック)

Web散策

自立活動教育研究会	ホームページを紹介 http://www.hi-mef.or.jp/jiritsu/ 自立活動教育に携わる教師を中心に情報共有と相互支援を目指す 自立活動教育研究会のサイト 本文はこちら
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

他団体から

参加された方、投稿よろしくお願ひします。_____

ATACカンファレンス	2004年12月3日(金)4日(土)5日(日) 案内・申し込み http://www.e-atac.jp/ 障害のある人や高齢者の自立した生活を助ける電子情報支援技術(e-AT)とコミュニケーション支援技術(AAC)の普及を目的。専門家のセミナー、実践紹介、ユーザ自身による発表、障害疑似体験、世界の最新動向紹介などを自由を選択して学べます。
NPO法人それいゆ 案内添付	平成16年11月23日(火・祝) *全通訳つき 場 所:大阪交際交流センター 講 師:トニー・アトウッド博士 杉山登志郎 氏 大塚 晃 氏 「アスペルガー症候群の人の社会自立の支援」 申し込み必要 16000円 それいゆHP http://www2.saganet.ne.jp/autism/

<p>大阪LD(学習障害)親の会 「おたふく会」</p>	<p>連続講座9月26日(日) 10月24日(日) 申し込みはこちら http://www.normanet.ne.jp/otahuku/ 学級及び学校での配慮と支援のあり方 - 特別支援教育の実践 に向けて -</p>
<p>もうすぐ 全特連(広島)</p>	<p>http://www5f.biglobe.ne.jp/zentokuren_h/ 10月27日(木) ~ 29日(土)</p>
<p>全国肢体不自由研和歌山 (二次案内)</p>	<p>http://www.nanki-sh.wakayama-c.ed.jp/zensiken/annai2.htm 11月17日(水) ~ 19日(金)</p>

2004 ICT 活用プロジェクト夏期講座に参加して

高槻第一中学校 岡崎あかね

B・デジカメで撮った一枚の写真があれば、
クイズムービーやおはなしムービーが簡単に作成できる！
E・教育と子どもの自発性を引き出す工夫 —保護者の立場から—
F・作ってみよう 3Dスライドショー

今年は初日にB、廣瀬 正彦 氏による、デジタルビデオ編集講座に参加、2日目に、E、Fと、小林 整 氏の講演と実技に参加させていただきました。どちらも、静止画から、動画へという研修になり、大変、密度の濃い、研修会でした。ありがとうございました。

まず、1日目。

Bの講座は、VideoStudio 8のソフトを使って、静止画を動画にし、部分から全体へ視点を移動させ、ものの形や、ものそのものを、体感させる取り組みでした。

動画は、一つ一つの静止画のつなぎで成り立っているというのは、頭ではわかっていましたが、今回の静止画の部分から、全体への構成練習で、もっと、生徒に何をわからせたいのか、自分自身ははっきりするようになりました。



2日目。

小林氏自身の生き方を含められた講演と、かおマウス誕生開発物語には、心を揺さぶられ力を得ました。障害があるから、何々できないと、いう考え方ではなく、何でもプラス思考で知識や経験と発想を練りあわされて創られた「かおマウス」は、障害を持つ人だけではなく、不可能を可能にするアイテムだと思いました。



午後のPowerPointの使い方にも、このような使い方があったのかと、目から鱗でした。特に、静止画を少しずつ、角度を変えて写真を撮り、ページに貼り付けて、矢印キーをクリックしてスライドショーの実行をすると、ものが回転して見えるのは、貴重な発見でした。矢印キーの→や←をクリックすると、回転している物体が、先に進んだり、戻ったりするように見えます。



3D制作は、専門的にやるなら、他にも、フリーソフト・シェアウェア ソフトを問わず、いろいろあり

ます。ソフト関連を扱っているサイトで容易に検索できます。

しかし、今回 PowerPoint で作れたのが、すごいとおもうのです。

私の学校では、パワーポイントのほうが総合的な学習の時間で使うことが多いので、専門的な内容のソフトを購入するよりも、あれこれ使える汎用性の高いものの方が、ニーズが高いのです。

一般的なソフトで、これだけ専門的なことができるのには、脱帽でした。ちなみに、まだわが校は Windows95 ですが、ちゃんと動きました。(画像はリサイズしました。)

PowerPoint があれば、作れますし、**創った物は PowerPoint が無い機種でも、ビューワーで見られます。**

小林 整 (Hitoshi Kobayashi) 氏によると、「ものが回転して見えるようにキーボードの矢印をクリックするよりも、『かおマウス』の方がスムーズで、マウスのスクロールを触ることによって、行きつ戻りつが簡単に出来、認識されやすいようです。

この『**擬似3Dアニメーティングによる立体情報の取得**』というのは、小林氏の前職の医用画像処理分野での手法を応用したもので、非常に理に叶った方法だそうです。おりしも、今テレビで「ぱらぱらアニメーション」のコンテストが話題になっていたりしますし、流行るかも知れませんね。

自分の手書きの絵や、愛着のある物の写真が、画面中で「命を得た」動きをするのは、やはり強い訴求力があると感じます。」とのことでした。

私も研修後、すぐさま回転台を探しに！

ありました！ **100円ショップで、テレビ回転台**（黒・直径25センチ・20kgまで）。その他、木製の直径18センチの回転台も100円。(キッチン用品みたいですが)

2学期は、いろいろ取り組みたいと思っています。



大阪府養研LD教育プロジェクト講演会報告 8月19日

講演会 「文字の習得と読み書き障害における認知機能（基礎編）」
筑波大学 大学院 人間総合科学研究科 宇野 彰 助教授

講演が始まるまでに、会場は300人程の参加者で満員となっていました。読み書き障害についての基本的な考え方の話の後、アメリカのディスレキシアと日本の読み書き障害との違い、共通点についての丁寧な説明がありました。宇野先生の読み書き障害についての長年の研究による、豊富なデータを使った説明は、とても説得力がありました。たとえば、漢字の覚え方として有効な方法を、同じ子どもに違う方法で試し、定着率で比較した報告は、現場での指導にすぐに活用できると思いました。

宇野先生のお話の中で一番印象に残ったのは、「常に子どものやる気、セルフエスティームを大切にしなければいけない」と強調されていたことでした。読み書き障害を考えていく上での基礎の大切さをあらためて教えられました。

第1分科会 「運動あそび教室の実践 - 軽度発達障害の子どもたちに - 」に参加して

吹田市の通級指導教室担当の先生方6人による報告でした。エアーズの感覚統合訓練をベースにした前庭覚、触覚、固有感覚を育てる感覚運動遊びを授業の一環として年間計画の下に取り組みされていました。LD児等にみられる感覚運動における多くの課題をpushし、そのためには、「どんな運動遊びをするのか」、「しかも楽しんでできるものを」とよく考えられていました。運動遊びをした後もその時の子ども1人1人の様子を記録し、指導者側の反省もなされていました。そして「運動技能の基礎になる感覚運動面を引き上げる取り組みであるが、何よりも大切に考えているのは、その子なりに身体を動かす楽しさを実感すること。」と話されたことが印象的でした。運動遊びをしているビデオも見せてもらったのでとてもよくわかり、参加者の方々からも2学期からの授業でやってみたいという声もきかれました。

第2分科会 「自閉症スペクトル(高機能自閉症・アスペルガー症候群)の子どもたちの理解と支援」に参加して

分科会の受付開始と共に、瞬く間に会場が一杯になり、どんどん椅子を入れていくという状況になりました。学校現場では、やはりこの問題が関心を集めているのだということが参加者の関心の高さから伺えました。高機能自閉症、アスペルガー症候群の子どもたちの症状や特性についての理解と、支援の原則や方略、特性を生かした指導のあり方、TEACCHプログラムの進め方など、具体的な事例を取り上げながら説明されて

いたのが、参加者の印象に強く残りました。「特別な支援をしている子どもたちのことをクラスの子どもたちにどう理解してもらうのか」という質問がありましたが、「クラス全員に役立つ支援としてとらえ、特別なこととして考えなくてもよいのでは」と答えられていました。

第3分科会「校内特別支援体制の試み」

堺市立向丘小学校の5年間の取り組み

発表者から

はじめに、「個に応じた指導と校内体制」が確立されるまでの5年間の取り組みについて米田先生が説明された。校内での取り組みとして、『児童一人一人の特性理解(事例研修)』、『一人一人の興味・関心を大切にした指導研究(研究委員会)』、『認知特性の理解(理論研修)』を実施し、職員全体で研修を行っている。また校内研修の中に『個に応じた指導研究委員会』を位置づけ、教育相談・個別支援検討会・個別支援連絡会・ケース会議を行っている。現在に至るまでの5年間の間に様々な気付きがあり、その都度検討を行ってきた。研修を行うことで通常学級担任の気付きも増え、研修を継続していくことの大切さ・職員全体でみることの大切さ・専門家との連携の大切さ・様々な特別支援体制のあり方が見えてきた。続いて、本校の特別支援体制として養護学級2クラス(たんぽぽ学級とすみれ学級)・リソースルーム・通級指導教室での実際の指導例等について各先生から具体的に説明された。リソースルームでは、学習の基礎・基本が身に付いていない為に、学校に来にくい児童や、情緒不安を起こしやすい児童、通常学級での学習に意欲を見出せないでいる児童に、学習の支援、及び、心のサポートをする教室である。本校では様々な取り組みや校内体制の基礎が確立されている為、色々な気付きが増えている。それぞれ個々の課題を見つけ、早急に支援してできるだけ救おうという、目の前の子ども一人一人を大切にしていける気持ちが必要である。

第4分科会「軽度発達障害の基礎講座」 LD・ADHD・PDD等への理解と支援を聞いて

LD・ADHD・PDD等教育に携わる人々の関心が高く、会場は満席となった。軽度発達障害の困難とつまずきの実態理解や対応の方策といった点について、具体的にわかりやすい資料が提示され、様々な事例の紹介もなされた。全体を通して実践・体験に裏打ちされた内容であり、山田先生の子どもに対する暖かいまなざしを感じ、大いに共感を覚えた。時代の養成でもあるが教師には、専門的な力量とともに支援システムの確立が今後切望される。

平成 16 年 9 月 5 日

学校長様
養護教育関係者様

大阪府養護教育研究会
会長 西田益久

府養研研究部・自閉症教育プロジェクト第 2 回研究会開催のお知らせ

暑い日がまだまだ続いております。平素は養護教育の振興と本研究会の発展のために格別のご厚意を賜り、誠にありがとうございます。

さて、大阪府養護教育研究会（府養研）では、本年度より立ち上げました「自閉症教育プロジェクト」の第 2 回研究会を下記の内容で実施いたします。自閉症児の教育指導に関する研究会 / 研修会の開催ならびにさまざまな関連情報の共有についても府内の教職員間のネットワークづくりをいっそう進めていく計画でございます。つきましては、第 2 回研究会への貴校の先生方の参加に関しましてご配慮いただきますとともに、あわせてご案内申し上げます。

記

1. 日 時 平成 16 年 10 月 20 日（水）
午後 3 時～5 時
2. 場 所 泉南府民センター 第一セミナー室
〒596-0076 岸和田市野田町 3-13-2
Tel.0724-39-3601
南海本線岸和田駅（特急・急行停車）
より東へ 800m、または JR 阪和線東
岸和田駅（快速停車）より西へ 900m
3. 内 容

【 講 演 】

テーマ 「自閉症の心理学的な障害特性の理解と対応の基礎」

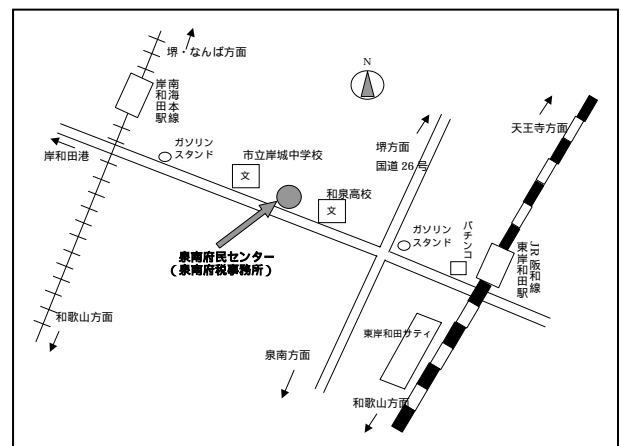
講 師 堺市立百舌鳥養護学校教諭 金井孝明先生

自閉症の心理学的な障害特性から、彼らがまわりの世界をどのように認識しているのか、どのようにしてかわろうとしているのかを知ることで、実践場面での具体的な対応がより工夫しやすくなります。

高機能自閉症、アスペルガー症候群をはじめ自閉症理解の本質にかかわる基礎的な心理特性についての理解を深めたいと思います。そして、例えば「構造化」や「視覚支援」と呼ばれる方法の意味も考えてみたいと思います。さらに、それらに基づき具体的な場面での対応はどうすればよいのかを考えます。

参加申し込みはいりません。当日会場に直接お越しください。問い合わせは、府養研事務局までお願いいたします。府養研事務局 E メール [_____](#)

（以上）



自立活動教育研究会 <http://www.hi-mef.or.jp/jiritsu/>

こちらは、自立活動教育に携わる教師を中心に情報共有と相互支援を目指す自立活動教育研究会のサイトです。

とトップページに書かれているように、「自立活動」に焦点を当てて交流をめざすサイトです。この視点で開設されている、おそらく全国唯一とも言えるサイトです。

また、学習指導要領では、「自立活動」の目標を

「個々の生徒が自立を目指し、障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」と定めています。すなわち、障害のある子どもたちの教育の根幹をなすともいえます。そこに焦点を当てたサイトである、という意味でも是非皆さんに紹介したいサイトです。

さらに、「ごあいさつ」の最後に

特別な教育的ニーズのあるすべての子どもに対して、『個に応じた、より充実した指導』が適切に行われるためにこのサイトが役に立つようお願いしつつ、このページを訪れた皆さんにも参加を呼びかけたいと思います。

とまとめられているように、参加型のサイトでもあります。

是非皆さん訪れてみてください。

こんなページがあります。 以下中心となるページを簡単に紹介します。

ごあいさつ：サイトの趣旨です

サイト開設趣旨・研究会の規約・会員名簿等が掲載されています

掲示板：情報共有、相互支援のひとつの柱です。

情報や質問等、投稿ルールに沿って書き込むといいでしょう。ただし、投稿されたものを管理者が投稿ルールに沿って確認後掲示板に書き込まれますので、投稿から掲示板に書き込まれるまで、若干の時間がかかるようです。

授業アイデア集：各地の創意工夫ある取り組みを交流する場です

「これからも内容を充実させ、日本一のアイデア集を目指します。」

とあり、アイデアの募集も行われています。

10月3日現在、アイデアはアップされていませんので、今後の充実が待たれます。

イチ押し！ 教材：自立活動教育研究会一押しの教材の紹介です。

大阪府養護教育研究会 ICT 活用プロジェクト夏期講座でも講師をお願いした、金子由紀子先生（箕面市立第五中学校教諭）の「くるくるクリック！」にリンクしています。

参加方法：メーリングリストへの参加方法です。

掲示板とともに、自立活動教育にかかわる教師のメーリングリストが開設されています。参加希望者は、このページから参加申し込みができます。

おすすめリンク集：言わずと知れたリンク集です

タムさんのウルトラリンク集は、参考になるサイトが満載です。

トニー＝アトウッド博士 初来日！

近年、文部科学省が打ちだした特別支援教育の流れとともに知的に遅れのない発達障害を持つ人たちの教育と支援のあり方が大きくクローズアップされてきました。その背景には、昨今増加の一途をたどる‘ひきこもり’や少年犯罪の報道とともに、こういった子どもたちを育てる際の困難さから来る幼児虐待などの社会現象が影響している事実は否めません。乳幼児期には知的発達や言葉の発達に目立った遅れが見られないために、彼らの持つ発達の問題、特に、LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群といった発達障害の発見が遅れがちになるために、社会的適応を促すための適切な教育を受ける機会を逃してしまうことがその現象を助長している、といわれています。そして、国会では、発達障害者支援法（案）が話し合われる時代になってきました。

そこで、このたびは、特に社会性の発達に問題を持つアスペルガー症候群の人たちへの教育や生活支援をテーマに取り上げ、この分野では世界中の研究者が彼の先進的実践を認めているトニー＝アトウッド博士をお迎えして講演会を開くことになりました。国内からは、厚生労働省からは話題になっている発達障害者支援法（案）を含み今後の国の行政支援の行方について、文部科学省からアスペルガー症候群の子どもたちへの特別支援教育の具体的方向性と望む成果についてお話いただき、特に大阪会場では国内での権威、杉山登志郎先生に社会自立支援における国内状況と支援の最先端についてお話いただく予定、東京会場では当事者の方にもお話いただくことになりました。そして、アトウッド博士にはアスペルガー症候群を持つ人たちの豊かな人生を支援するためには、どうすれば二次障害や犯罪に巻き込まれることなく成人期の社会適応をめざすことができるかといった点をにらみながら、その障害特性を踏まえた上で、衝動性や感情のコントロール、友達づくりの支援、通常学級で成功する教育支援の方法など、既に英語圏で実績を上げているより良い教育や福祉支援のあり方について具体的にお話いただきます。アスペルガー症候群の人たちの教育支援について世界の視点から考えるまたとない機会ですので、どうぞ奮ってご参加ください。

大阪会場 テーマ 「アスペルガー症候群の人の社会自立の支援」

日 時：平成16年11月23日（火・祝） * 全通訳つき
場 所：大阪交際交流センター
講 師：トニー・アトウッド博士
杉山登志郎 氏（あいち小児医療保険総合センター保健センター長）
大塚 晃 氏（厚生労働省障害福祉部 専門官）

東京会場 テーマ 「アスペルガー症候群の子どもたち、その特別支援教育」

日 時：平成16年11月27日（土） * 全通訳つき
場 所：大田区産業プラザ
講 師：トニー・アトウッド博士
リチャード＝モート氏（AS当事者から教育への希望）
柘植 雅義 氏（文部科学省特別支援教育課 調査官）

両会場とも参加費は、16,000円（税込） * 当事者割引があります

申込み・問合せは両会場ともに、(tel) 0952 - 36 - 8751 又は _____

主催 NPO 法人それいゆ（民間の自閉症特化型支援構築機関）